

第 44 回組織細胞化学講習会 参加報告

医学系部門 生命科学実験班 尾崎 佑子

1. はじめに（目的等）

あらゆる細胞や組織の機能を可視化してその生命現象の本質に迫る組織細胞化学の技術は、生命科学分野の研究に必要不可欠な実験手法となっている。私が配属されている原医研では技術支援の一つとしてこれらの手技を用いた組織標本作製を行っている。日々進歩する組織細胞化学において、ユーザーの様々な要求に応えるためには、相応の知識と高度な技術が必要で、そのためには日々の経験の積み重ねだけではなく、新しい技術や知識の習得が不可欠である。そこで、新たな知識や技術の習得・情報収集を行うことを目的として、本講習会に参加した。

2. 期間・場所

期間：2019年8月1日(木)～2日(金)

会場：一橋講堂（東京都千代田区）

3. 参加者等

研究者等 300名程度

4. 研修内容

組織細胞化学的手法の基礎と応用について、分子を観る、細胞を知る、機能を探るというサブタイトルで「組織の取り扱いと固定方法の基礎」や「免疫組織化学染色の実際と注意点」など、計20演題を聴講した。

5. まとめと感想

今回の講習会は、例年と比較して新しい内容の演題が多く、今後の業務に活かせるような内容もあり、大変勉強になった。

私が配属されている原医研では、固定までの操作と免疫染色は行っていないため、切り出しや固定、免疫染色に関する正確な知識を持っているのか不安だったが、今回の講習会を通して、これらの知識を再確認できたとともに、新たな技術や知識を学ぶことができた。それ以外にも、電子顕微鏡レベルでの観察方法や、染色体レベルで観察することができる FISH 法など、普段は依頼者の先生が行う操作方法についても聴講することができた。先生方の要望に添った標本を返却するという点で、これらの知識が今後の業務に還元できるのではないかと思う。

これまでは実作業である包埋、薄切、染色までの技術や知識を得、それを業務に活かすことで精一杯だったが、少しずつ他のことにも目を向けられる余裕が出てきた。もちろん包埋から染色までの技術や知識で不足している部分は多いため、これからも自己研鑽を積んでいくとともに、今回学んだことを活用し、適切な技術支援を行っていきたいと思う。